

アジア太平洋の 未来を創る大学

特集— 立命館アジア太平洋大学

近年、アジア太平洋地域の発展は著しく、その存在感は世界から注目を集めている。

2000年4月1日、大分県別府市に「立命館アジア太平洋大学」が開学した。学校法人立命館が、立命館大学の創立100年を機に、21世紀を見据えた新しい大学の創設を構想し、「自由・平和・ヒューマニズム」「国際相互理解」「アジア太平洋の未来創造」を基本理念として誕生した国際大学である。

日本のビジネスノウハウを学ぶ「国際経営学部」と、アジア太平洋諸国が抱える課題に向き合うことを目的に社会・文化等の側面から理解を深める「アジア太平洋学部」の2学部から成り、現在、世界77の国と地域の学生5,800人あまりが在籍する。





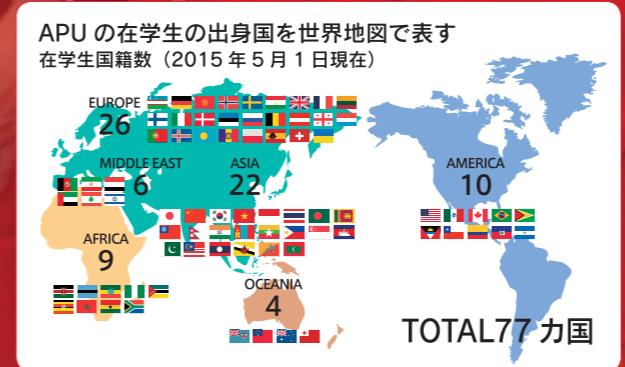
立命館アジア太平洋大学(以下APU)は、在籍学生のおよそ半分が留学生、専任教員も2人に1人は外国籍という国際色豊かな大学である。

「複雑化の一途を辿るグローバル社会を牽引する人材には、広い知見やノウハウだけではなく、複雑で多様な文化への理解が必要とされます。APUは様々な文化、思想、常識をもつ学生たちが共に生活し、学びながら

相互理解を深める『真の国際大学』というコンセプトの下に開学しました」と立命館アジア太平洋大学 アドミニストレーション・オフィスの北村課長は話す。

多文化環境を実現するために、開学時の指標として“3つの50”が掲げられた。“開学時点で留学生の割合50%、外国人教員の割合50%、留学生の出身国・地域50カ国を目指す”というものである。英語によ

るガイダンスや授業の実施、日英二言語の案内表示など、留学生誘致のためのグローバルな環境づくりを徹底し、世界各国でAPUのプロモーションを行った。その結果、開学初年度には46カ国から421人の留学生を迎える、日本では前例のない多文化共生の大学が誕生した。以来、APUの多文化環境は進化し続け、2015年現在までに136カ国・地域からの学生を受け入れている。



APUは、大学の「一村一品運動」として大分県から誘致を受けたことをきっかけに、別府市に開学した。

APUの開学を機に、別府市では市役所や病院で日英二言語化に対応するなど、国際都市としての機能強化が進んでいる。

また、国際色豊かなイベントは、身近な異文化体験と交流の場になっており、年間1万3千人の市民がキャンパスに訪れる。



立命館アジア太平洋大学

管理概要

管理開始 2014年10月
管理内容 設備管理業務
管轄 九州営業所

建築概要

施設名称 立命館アジア太平洋大学
所在地 大分県別府市十文字原1-1
主要用途 学校（大学）
建築主 学校法人立命館
設計 山下設計 他
施工 鹿島建設 他
面積 延床面積 106,813m²
敷地面積 423,419m²
構造 RC造
主要棟数 15棟
教室数 118教室
住居数 1,310居

主要設備概要

電気設備 高圧 60kV 2回線受電
トランス容量 8,000kVA (4,000kVA × 2)
非常電源 300kVA × 1基
衛生設備 上水受水槽 199.5m³ × 1基 他
高置水槽 加圧給水ポンプ併用方式
空調設備 吸式式冷温水発生器 600USRT × 2台
ガスピートポンプエアコン

多文化環境がもたらす 意識改革



「多文化協働」が養う国際人

APUでは、多文化環境を学生の成長に活かすために、学習面、生活面で「多文化協働」の機会を創出している。

「多文化協働学習」は、国籍が異なる学生からなるグループごとに、共通の課題に取り組む授業方式で、すべての新入生を対象としたオリエンテーションにも取り入れられている。

「慣れないうちは、同じ言語を話し、同じ常識や価値観を持つ同郷の学生同士で集まってしまいがちです。しかし、それではせっかくの多文化環境を活かすことができません。そのため、入学後すぐに学生の出身地をシャッフルし、多文化協働学習を実施することで、国や文化の枠を越えた交

流の第一歩としています」と、北村課長は話す。

また、APUには、日常生活の中にも多文化協働の機会がある。それが国際教育寮「APハウス」である。

「元々 APハウスは、留学生が日本の生活ルールを身につけることを目的につくられた寮ですが、日本人学生も入寮し共同生活を送ることによって、相乗効果を生み出しています」留学生にとっては同世代から日本の習慣や考え方を知る絶好の機会であり、日本人学生にとっては海外留学に匹敵する環境となる。コミュニケーション能力だけでなく、文化の違いにより生じる課題に向き合い解決する能力も養われる。



100カ国から迎え入れ、世界へ送り出す大学へ

APUは昨年、新たな指標として“4つの100”を掲げた。1つ目は「多文化協働学習」を学部の全授業で取り入れることをめざす“多文化協働学習の授業実施率100%”。2つ目は、日本人学生も含めたすべての新入生が「APハウス」を活用できるようにする“初年次学生の国際教育寮活用率100%”である。他にも“国内学生の海外留学経験率100%”、“留学生の出身国・地域 100カ国”をめざした取り組みが進められている。

日本でビジネスを学び、いずれ母国にそのノウハウをもち帰り、国の発展に貢献したいという思いでAPUに入学し、日本国内の企業に就職する留学生も多いという。その後、各国の現地法人へ活躍の場を広げる学生も少なくない。

「4つの100」をめざす過程で、APUの卒業生の活躍の場はさらに広がっていくはずです。APU卒業生のネットワークが国の大枠を越えて様々な成果をあげ、アジア太平洋地域の持続的な発展へより大きく貢献していくと信じています」



国際教育寮「APハウス」では国内学生1,300人が共同生活している。日常生活での協働を通じ、国籍を越えた学生同士の強いネットワークを築いている



TALK
TO 対談
TALK



異文化が交錯する施設の管理

立命館アジア太平洋大学は42万m²の敷地に11棟の大学施設と4棟の国際教育寮を有する。この広大なキャンパスと寮では、大学の活動や学生生活が円滑に行えるよう、株式会社クレオテックが統括管理を、鹿島建物が設備管理を担っている。今回は立命館アジア太平洋大学 北村課長、株式会社クレオテック 田邊課長、鹿島建物 清家管理事務所長にAPUの施設管理についてお話をうかがった。



1,300人が生活する「APハウス」の管理

北村様 APUの施設管理で一番大変なのは国際教育寮「APハウス」の管理ではないでしょうか。

田邊様 クレオテックでは学校法人立命館が所有する全国のキャンパス管理を行っていますが、APUの場合は、まず国際色が非常に豊かである点、そして隣接する寮で1,300人の学生が生活している点が他のキャンパスとの大きな違いです。APハウスには寮の運営を行う専門のオフィスを置き、施設管理は鹿島建物さんと連携して行っています。

北村様 日本での生活も親元を離れての生活も初めての学生にとって、シャワー やキッチンの使い方から共同生活におけるルール・マナーまで、すべて身につけるには時間がかかります。設備の誤使用などは日常茶飯事で、鹿島建物さんにも苦労をかけていると思います。

清家 共用設備の不具合は共同生活に支障をきたしますので、後回しにはできません。IH調理器の誤使用、トイレ・シャワーのトラブル、建具の破損など、一日に数件は確認や復旧に駆けつけます。特に、留学生が入寮する9月からの数ヶ月間は、思いもよらないトラブルがいつ発生してもおかしくない状況ですので、即時対応ができるように体制を整えています。

北村様 APハウスは、日本の習慣や、日常生活に伴う日本語を学ぶ場でもありますので、クレオテックさん、鹿島建物さんは、留学生に対しても日本語で接するようお願いしています。寮から出て市内で暮らすときには、英語が通じるとは限りませんからね。

清家 入学直後は日本語がままならない学生も多いため、当社の配置スタッフにより英語対応を行うことがあります、基本的には日本語で日々の業務にあたっています。

田邊様 学生と関わることの多い私たちは「日本について示してあげる」役割も担っていると考えています。もちろん、万が一の事態に備えて当社でも語学が堪能なスタッフを揃えています。



写真左: キャンパスや寮で発生するトラブルに速やかに対処するため、クレオテックと鹿島建物の間でリアルタイムなデータ共有を行っている

写真右: 広大なキャンパス内へは地下共同溝を通じてエネルギーが搬送されている。授業やイベントに支障をきたさないために、日々の点検が欠かせない

大学の活動にフレキシブルに対応する

田邊様 鹿島建物さんは教育施設以外にも様々な用途の施設を管理されていますが、大学ならではの大変さはありますか？

清家 大学施設は授業だけでなく、学園祭などのイベントや学会などが開催されたり、日常的に学生が様々な課外活動を行ったり、と幅広い使われ方を

しています。そのため突発的な事項も多く、できるだけスムーズに対処するためには常にフレキシブルでなければなりません。

田邊様 APUはイベントの機会がとても多いと思います。スピーカーや照明の設置などは日常的に対応していただいている。

清家 利用者にご不便を感じさせないよう、全スタッフで当日の業務をきめ細

かく確認し、アラーム機器なども活用して、設置や撤去にもれがないように気を使っています。

北村様 APU独自の多文化共生環境が安心・安全・快適に実現できているのも、クレオテックさんや鹿島建物さんの万全の管理体制があってこそだと実感しますね。これからも施設管理の面からAPUの多文化共生のサポートをお願いいたします。

写真右より

立命館アジア太平洋大学
アドミニストレーション・オフィス
課長 北村 滋朗様

株式会社クレオテック
九州事業部 APU キャンパス管理課
課長 田邊 泰博様

鹿島建物総合管理 九州営業所
立命館アジア太平洋大学設備管理事務所
所長 清家 修栄

